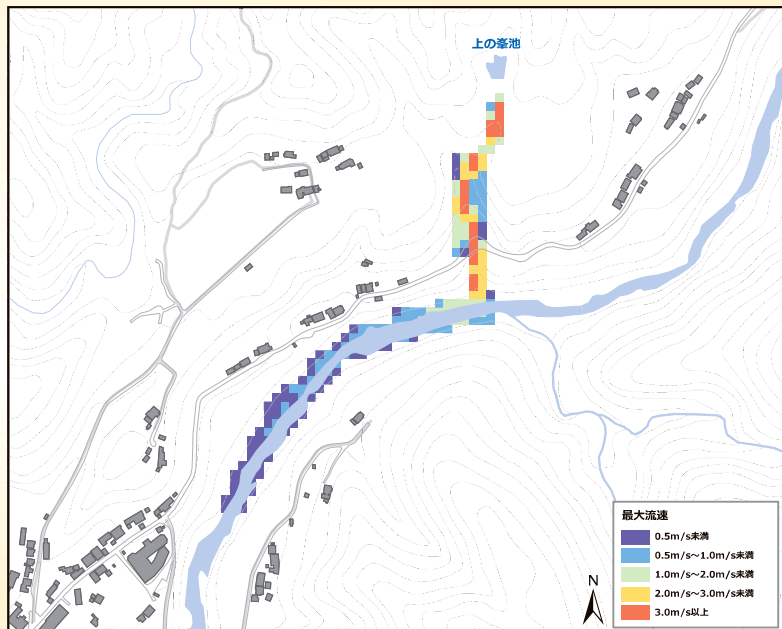


古座川町ため池ハザードマップ



下露地区版

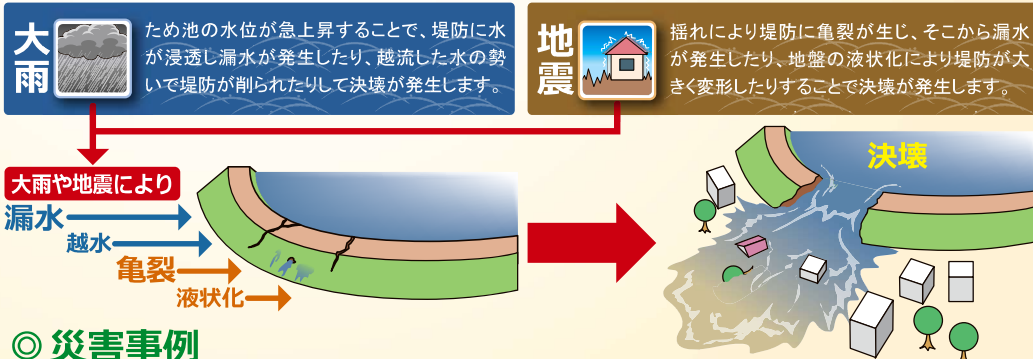
右の図は、ため池が決壊し、貯水していた水が全て下流へ氾濫した場合の「最大の流速」を示しています。なお、裏面には、「最大浸水深」、「到達時間」を表示したマップを示しています。



古座川町役場
〒649-4104
和歌山県東牟婁郡古座川町
高池673-2
電話番号: 0735-72-0180
FAX番号: 0735-72-1858

ため池決壊について知ろう

◎ ため池決壊の原因と起こり方



◎ 災害事例

大雨 平成16年 台風23号
大雨により淡路島内の1,299箇所のため池が被災し、181箇所のため池が決壊しました。
洲本市では、ため池決壊に伴う河川増水により死者2名を出す被害となりました。

兵庫県
淡路島

地震 東北地方太平洋沖地震 (平成23年3月11日)
震度6弱の揺れで、山の上にある藤沼湖が決壊し、死者・行方不明者8名を出す被害となりました。
●地震発生から20～30分後に決壊。
●田植え前で満水状態であった貯水が全て流出。
●下流の集落に土石流となって押し寄せた。

福島県
須賀川市

状況に応じた対応を考えよう



大雨が発生した場合

古座川町から発表される避難情報(避難準備情報、避難勧告、避難指示)に従い行動しましょう。また、雨の降り方や周辺の状況から「あぶない」と感じたら、自分から進んで早めに避難をしましょう。

発表される気象情報

発表基準
(和歌山地方気象台資料より)

大雨注意報

表面雨量指数 16
土壌雨量指数 145

大雨警報

表面雨量指数 20
土壌雨量指数 192

記録的短時間大雨情報

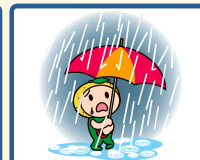
110mm以上



やや強い雨

(1時間に10～20mm)

この程度の雨でも長く続く時は注意が必要です。



強い雨

(1時間に20～30mm)

側溝や下水、小さな川があるれ、小規模ながけ崩れが始まります。



激しい雨

(1時間に30～50mm)

山崩れ・がけ崩れがおきやすく、危険な地域では、避難の準備が必要です。



非常に激しい雨

(1時間に50～80mm)

土石流が起こりやすく、多くの災害が発生します。



猛烈な雨

(1時間に80mm以上)

雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。



大きな地震が発生した場合

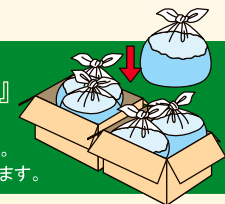
揺れがおさまったら、ため池の下流域にお住いの方や作業中の方は、高台やため池から離れた場所へ避難しましょう。外への避難が困難な場合は、家の2階のため池とは反対側の部屋へ移動しましょう。

自宅に留まることも選択肢の一つ

浸水の中を避難することはとても危険です。浸水がすでに始まっている場合や、自宅がため池から離れており浸水被害が小さいと予想される場合は自宅に留まり、2階へ避難するというのも選択肢の一つです。

家屋の浸水を軽減する方法

『ゴミ袋による簡易水のう』
40リットル程度の容量のゴミ袋を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。これをダンボール箱に入れ、連結して使用します。



避難をする時に注意すること

● ため池決壊以外の災害も意識する

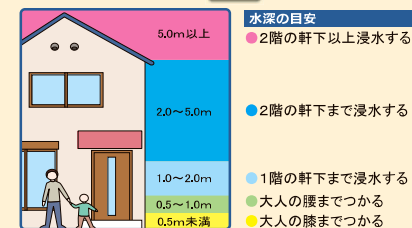
ため池決壊のおそれがある状況では、周辺で右図のような災害も発生している可能性があることに注意して避難しましょう。

● 危険な場所は避ける

できるだけ狭い道や塀ぎわ、川や水路の近くなどは避け、安全な広い道を選んで避難しましょう。

● 浸水し始めたら無理をしない

歩ける水深の目安はひざくらいまでです。水深が浅くても流れが速くなると大変危険なので、無理をしないようにしましょう。



古座川町ため池 ハザードマップ

下露地区

上の峯池



凡 例

避難施設

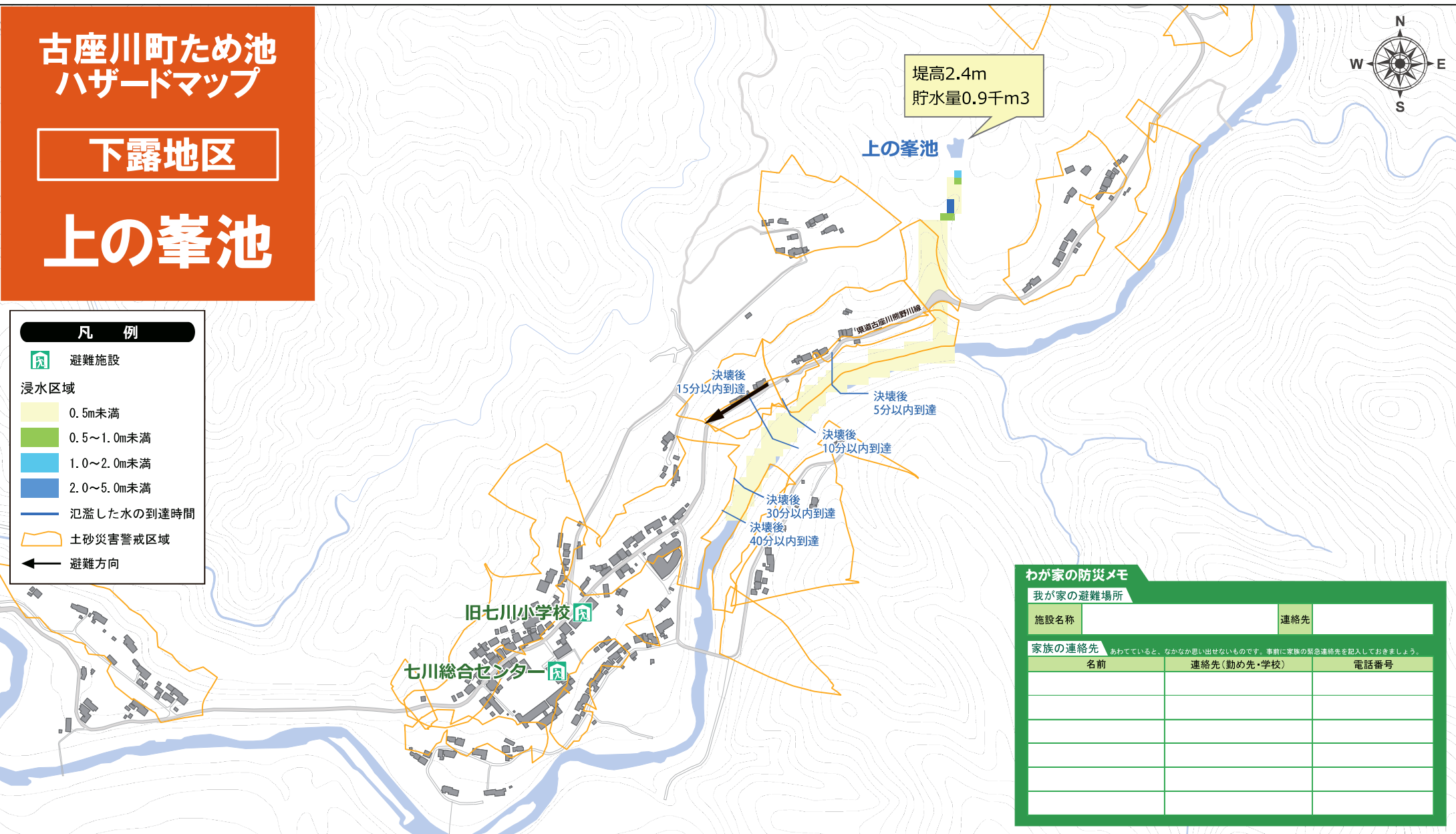
浸水区域

- 0.5m未満
- 0.5~1.0m未満
- 1.0~2.0m未満
- 2.0~5.0m未満

氾濫した水の到達時間

土砂災害警戒区域

避難方向



わが家の防災メモ

我が家の避難場所

施設名称	連絡先

家族の連絡先 あわてていると、なかなか思い出せないものです。事前に家族の緊急連絡先を記入しておきましょう。

名前	連絡先(勤め先・学校)	電話番号

このハザードマップは、上の峯池が以下の条件で決壊した場合の浸水区域と土砂災害の危険がある区域を示しています。

《ため池決壊条件》

- ため池の水が満水状態
- 堤防が決壊し、貯水量の全量が流れる

※1 ため池の氾濫解析は「(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構」が開発した解析システムによる解析結果を着色表示しています。

※2 状況によっては様々な条件が重なり、マップ上で想定されている以外の区域で浸水や土砂災害が発生する可能性がありますので十分に注意が必要です。



自分たちの住んでいる地域で発生するおそれがある災害をイメージし、避難について考えてみましょう。

- ため池はん濫
- 土砂災害
- 河川はん濫
- 内水はん濫 (水漏れなどの位置)
- 液状化
- 火災
- 建物倒壊

